

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993300017		
法人名	医療法人健和会		
事業所名	グループホームふれあい広陵		
所在地	北葛城郡広陵町三吉28-1		
自己評価作成日	令和2年3月1日	評価結果市町村受理日	令和2年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	令和2年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すぐ近くには讃岐神社、少し足をのばせば竹取公園や馬見丘陵公園があり、周辺には高い建物がない為日当たりと風通しもよく自然を感じながら生活が送れる場所に立地しています。食事は毎食職員の手作りで、裏庭で採れた新鮮な野菜や旬の食材を取り入れ、バランスの取れた食事を心がけています。一人ひとりのペースに合わせた生活を送って頂けるように、個別ケアを大切に支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体の事業所で、広陵町北西部の築山古墳や馬見丘陵公園に近い自然豊かな所にあり利用者は四季を感じながら穏やかに過ごしておられます。当事業所は開設時から自治会に加入し、地域との繋がりを大事に交流されています。建物は平屋建てでユニット別に玄関があり、館内は広く清潔感に溢れ適度な光も差し込んで、一人ひとりが自由にくつろげる共用空間が確保され、利用者が安心して暮らせる環境となっています。また、天気の良い日には安全面に配慮しながら近場を散歩したり、春と秋には弁当持参で遠足に出かける等、普段から身体機能の低下を防ぐ機会を積極的に取り入れ出来る限り自立した生活が送れるように、個別ケアを大切に支援されている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念をグループホームの理念とし毎朝朝礼時に唱和することで職員が日々意識できるようにしている。	毎日の朝礼で理念を唱和し、事業所の理念に沿ったケアサービスが提供されているか再確認しながら実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入させていただき、町の広報誌の配布を受けている。また、散歩などで地域の方と顔見知りになり声をかけてくださったり、老人会が振る舞う甘酒を届けていただいております、地域の行事にも参加させていただいている。	地域行事の案内を受けて、夏の「みこし」見物や敬老会の催しに出かけておられ、また、日常的な散歩などでは地域の方々と顔なじみになり、互いに声掛けもされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談や見学で来館された家族に対し、今の様子や困っていることを聞き、すぐに入居に繋がらなくても、少しでも家族の気持ちに寄り添い在宅での介護が継続していただければと考え関係作り方や考え方を一緒に考えるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、近隣の区長・民生委員・地域の方が参加してくださっている。第三者の素朴な意見や疑問は貴重な言葉ととらえている。地域の行事内容等を聞かせていただき、入居者の記憶を引き出す際に生かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議では、事業所の報告事項や取り組み、課題について意見交換が行われており、出された要望等はサービスの向上に活かしておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の様子を伝えたり、事業所の実情を報告している。困ったり、判断に迷うときなど相談し、アドバイスをいただいております。	町の担当者とは折に触れ、利用者の状況や事業所の情報等を伝えながら連携を深め、アドバイスも受けておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や勉強会で学習し、職員全員が周知取り組んでいる。問題が発生したときは担当職員が中心となりご家族とも相談しながら支援方法を考え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会や勉強会を通して身体拘束の弊害を正しく理解し、拘束のないケアの実践に取り組んでおられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ステップアップ研修に虐待防止の研修も組み込まれていて、職員の意識を高めている。職員同士で情報を交換したりお互いに相談しやすい環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおられました。ステップアップ研修にも組み込まれ、制度の理解を深め活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し理解をしていただいた上で契約をさせていただいている。必要に応じて繰り返し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはできるだけご家族に声をかけ、ご意見やご要望を伺い職員間でも運営に反映させていただいている。	運営推進会議の他、面会時に家族等に声をかけて意見や要望等を聞く機会を設けるようにされており、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努めておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、主任が中心となって開催している。自由に意見が言える機会を作り、会議では出た意見を検討し業務改善等に生かしている。	月1回の会議で職員の意見や要望を聞くようにされており、情報の共有化や、職員の気付き・提案等に検討を加えながら運営に活かしておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織全体で職能給制度を取り入れている。個別面接を行い向上心を持って働けるように働きかけている。またストレスチェックも導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの導入により、やりがい・向上心をもって働けるようにしている。研修は勤務時間内で受講、受講料の補助等受講しやすいように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でグループホーム会議を月1回実施し、意見や情報交換、勉強会をしている。町内や周辺地域のグループホームとも交流する機会を作りお互いに相談できる関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接では、今困っていることや心配なことはないか、ご要望も聞きながら話しやすい雰囲気を作り、安心して入居して頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談・見学の段階から時間をかけて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や、入居相談時、グループホームの生活が困難と判断したときは他のサービスを勧めたり相談先の案内をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりのなかで教えて頂くことがたくさんあり、助けられ、助け合いながら生活が送れる親しみやすい関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも日々の生活への関わり、協力をお願いして、共に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ面会に来ていただけるように、面会時間の制限はありません。お正月に外泊をされご家族と過ごされたり、お誕生日には外出しお食事をされる方もいる。	親戚や知人の訪問等があり、これまで大切にされてきた馴染みの関係が途切れないように、一人ひとりの思いを尊重しながら継続的な支援に努めておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔馴染みの人が傍にいただけで落ち着かれることもあり、お互いに傍にいないと心配し合える関係が築けている方もいる。何かトラブルになりそうな時は職員が間に入り良好な関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご本人やご家族の様子を伺い、相談があれば対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えられない方に対しても、普段の生活の様子や、会話や表情を、ご家族からの情報などから本人の意向をくみ取り、可能な限り支援できるように努めている。	日々の関わりの中での言葉、行動、表情などから真意を推し測り、思いや意向の把握に努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時や入居後の面会時にご家族や知人から情報を得るように努めている。本人との日常的な会話からも情報を得ようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面接時や入居後の面会時に家族から情報を得るように努めている。本人との日常的な会話や行動からも情報を得ようとしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画に基づいた介護を実践し記録に残している。ケアプランチェック表を基に3カ月ごとに計画の見直し・評価を行っている。	3ヶ月毎にケアプランチェック表を基に本人、家族の意見・要望を聞きながらモニタリングを行い、介護計画を見直しされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画に基づいた介護を実践し記録に残している。ケアプランチェック表を基にケアプラン会議で計画の見直し・評価を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応でき、ご本人やご家族のご要望にはできる限り対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるコンサートや、地域の行事に参加し楽しんでいただいたり、RUN伴にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、ご本人・ご家族に決めていただいている。通院が困難な方も多く、ご希望により月2回の往診も受けている。かかりつけ医とは連絡や相談をしながら健康管理をしている。	月1回、協力医療機関へ通院の支援をされており、通院が困難な方は希望により、別の協力医から月2回の往診を受けておられます。また、入居前のかかりつけ医を希望される場合は、家族が同行されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で常に介護職と連携を取りながら健康管理を行っている。個々に応じた医療・看護につなぐことができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを提供し病院関係者とも連絡を取りながら、早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意向を聞く機会を持っている。ご本人にとって、より良い居場所選びや方向づけができるように努めている。	入居時に本人や家族の意向を聞く機会を設けておられ、状態が変化した際は、管理者が看護師でもあることから主治医と連携を取りながら最善の方策で対応されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ステップアップ研修で緊急時の対応の研修を受けている。施設でもその時々に応じて訓練や説明を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火訓練を行っている。運営推進会議でも火災や災害時の避難場所や、協力体制の確認もしている。	夜間も想定した防災訓練を年2回行っておられ、避難場所や地域住民への緊急連絡網も作成されています。また、水や非常食等の備蓄も3日分用意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーを確保したかわかりができているかを職員一人一人が意識し互いに注意しあえるようにしている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシー保護について、職員が共通の意識を持ちながら、気持ちの良い言葉かけ等に心がけておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の時間を大切に、ご本人の意思を確認し、無理強いせずご本人の動きを待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はありますが、居室でテレビを観たり、編み物をしたり、自由に過ごされている。一人ひとりのペースに合わせて個別ケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気候に合わせた服装をしていただけるように準備している。ヘアスタイルも散髪時に希望を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てるときは意見を聞きながら行っている。料理の味見をしていただいたり、野菜の皮むきや種取などそれぞれができることを一緒に行い、食器の洗浄や食器拭きなども自分の役割とってして下さる方もいる。	食事に関心を持ってもらうため、利用者の希望も取り入れて献立を作成されています。また、一人ひとりの出来る範囲内で職員と一緒に食事の準備や後片付けをされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食材が10品目に近づけられる献立で家庭料理を中心に提供している。嚥下困難な方にたいしてはきざみ食やミキサー食、とろみをつけたり状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。歯科医による往診により、義歯の調整や歯の管理、助言も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を目指している。個別の排泄パターンに合わせて誘導を行いトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導を基本に、排泄の自立に向けた支援を行っておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	根菜など繊維を多く含む食材の選択や身体を動かすアクティビティ、トイレ誘導時の腹部マッサージなどを行い緩下剤使用が最小限に留められるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくりと入浴して頂いている。曜日ごとに入浴日は分けていますが、入浴の準備や時間は考慮し、気持ち良く入浴していただけるように支援している。	週3回の入浴日を設定されており、午前午後に関係なく個々のタイミングに沿って気持ちよくゆったりと入浴できるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に気を配り、安心して気持ちよく休んでいただけるように支援している。眠れない方には温かい飲み物を提供したりお話ししたり安心感を持って頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や服薬情報をファイルに綴り、変更時や注意を必要とする時は申し送りをして、職員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日にはお食事のリクエストがあれば、ご希望のメニューで昼食を提供し、おやつには職員手作りのケーキで皆さんとお祝いしている。季節ごとの壁面飾りや、塗り絵も楽しみながら作っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や気候の良い時期には、散歩に出かけるようにしている。玄関前のベンチで外気浴をしたり外に出る機会をできるだけ作るようにしている。	天気の良い日には近くの神社を散歩したり買い物に出かけたり、時には気分転換のドライブや春と秋の遠足なども取り入れ、積極的に外出支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて、買い物同行の支援をしている。必要時は施設で立て替えて支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、希望者に対して家族に電話をかける援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く自然光を上手に取り入れられる構造になっている。窓の開閉・床暖・換気扇・加湿器・空気清浄機を活用し室温・湿度管理を行っている。居間はスペースを広く取り、ゆったりと過ごしていただけるようにしている。	館内は広く清潔感に溢れ、適度な光も差し込んで自由に過ごせる共用空間が確保されており、フロアの飾りつけも生活感や季節感を醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに食堂部分と居間部分を使い分けて過ごされている。会話されている方・テレビを見ている方・新聞や雑誌を見ている方とそれぞれの動きがあり、好きな場所で好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は居心地の良い場所になるように、使い慣れたものや馴染みのあるものを置いたりご本人やご家族と居室内の配置を相談しながら、落ち着いた雰囲気になるように努めている。	エアコンとタンス、洗面台が備え付けられた居室には、本人の使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動スペースを広くし安全に自由に移動ができるように支援している。危険がある場合はセンサーを使用し安全に生活が送れるように工夫している。		